

平成 30 年度 十日町市まちひとしごと創生総合戦略 総合評価

■基本目標 I : 安定した就業の場を増やす		
総合評価	推進会議総括	委員からの意見
A ⁻	<p>基本目標 I「安定した就業の場を増やす」に関連する事業は、当初設定した KPI を概ね達成できている。中には KPI を大きく上回る施策も見受けられ高く評価できる。</p> <p>農林水産業の 6 次産業化・ブランド化にあっては、ややペースが緩まっているように見受けられるため、関係諸機関との連携による底上げが望まれる。</p> <p>1. 農業の競争力強化、3. 新規創業支援本事業の成功にむけては、関係諸機関との連携により、新規就農者、創業者の初期の不安定な経営基盤を適切に支えることが望まれる。</p> <p>農業の競争力強化における認定農業者数にあっては、目標値が高く、人口・農業者が減っている中で、着実に増えていることは評価できる。</p> <p>きもの産業のひとづくり支援にあたっては、観光交流施策との連動を意識し、需要創造を含め総合的な対応が望まれる。</p> <p>地場産業の活性化にあっては、「販路拡大助成金」の活用件数が伸びておらず、その原因をふり返る必要がある。</p> <p>トオコンをベースに各事業が連動して起業の促進に結びついていることは評価できる。</p>	なし
1 農業の競争力強化		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1) 農業の担い手の育成・確保・支援における重要業績評価指標 (KPI) である「認定農業者数」については、新規認定者 16 名確保するなど増加傾向にあるが、農業者の高齢化による辞退の申出もあり、認定農業者数は伸び悩んでいる。認定農業者個人への各種支援によるメリットを周知し、認定農業者を確保する必要がある。「新規就農者数」については、年度末目標目安を上回っており、順調に推移している。</p> <p>(2) 6 次産業等支援事業取組者数</p>	<p>・認定農業者数について、2018 年目標値 560 人に対して実績 519 人ということで、実数は少しずつではあるが着実に増えている。人口・農業者は減っている中で目標値が高いので、評価はもっと高くしても良いと思う。認定農業者の位置づけ、PR、周知、喚起が大事である。</p>

	については、年度末目標目安を上回っているものの、取組者数が減少傾向にある。今後は農業所得の向上のため、一層の新商品開発や販売力強化、販路拡大の取り組みを支援する必要がある。	
--	--	--

2 地場産業の活性化

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)地元企業の振興は、目標値に対する実績値が順調に推移しており、また、72人もの新規雇用に繋がるなど目標達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>(2)きもの産業の継承については、H30 目標値に及ばなかったものの、きもの産業での新規就労者の確保が厳しいなか、4名の新規就業に繋がる結果も出ている。</p> <p>(3)十日町産品の販売力強化における K P I である「販路拡大助成金の活用件数」が年度末目標目安を大幅に下回った。目標値達成に向け、より一層制度活用の P R を図り、販路拡大を目指す企業の支援を行う必要がある。</p> <p>地域商社の十日町産魚沼コシヒカリ販売量は、販売営業強化により販売量が着実に伸びている。</p>	<p>・昨年度、会社で3つの販路拡大のための事業を業者の方を募って参加した。販路拡大助成金の要項を見ると助成を受けられるのが1回だけである。1回だけだと成果が出にくい。その後のフォローをしながら2年続けて参加しないと事業展開がうまくいかないもので、2年目も助成を受けられるようにすると件数も伸びていくのではないかと。</p> <p>・十日町の伝統産業のきものは、だいぶ推進できる。群馬県桐生市が日本文化の日本食からスタートしていますが、どういったものが世界に広まりつつあるというのも、うまくキャッチして進めていけばいいのではないかと考えています。</p>

3 新規創業の支援

施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)(2)新規創業件数は H30 年度の目標値を達成していることから、目標達成に向けて着実に進んでいる。今後、各事業と連動させて新規創業支援のさらなる充実を図る。</p>	なし

■基本目標Ⅱ：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

総合評価	推進会議総括	委員からの意見
A	<p>基本目標Ⅱ「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に関連する事業は、当初設定した K P I を概ね達成できている。但し落ち込みが見られる合計特殊出生率は、昨年度の推進会議の総括、ならびに施策総括でも指摘されているように、移住・定住の促進、結婚促進、妊産婦の支援等の施策との連動が欠かせない。観光交流事業、U・I ターン事業で得た現代</p>	なし

	<p>人の嗜好やライフスタイルを適切に把握し、十日町での子育てを望む層の開拓に努めることが望ましい。</p> <p>男女の出会いや結婚の支援にあつては、ハピ婚での官民連携や充実した子育て環境の整備が評価できる。また、ワークライフバランスの推進においても、周知や様々な団体への働きかけで単年度数値も倍増していることは評価できる。</p>	
1 男女の出会いや結婚の支援		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)男女の出会いや結婚を後押しする環境づくりでは、関連事業を通じて成婚したカップル数が増加し目標値を達成した。また、結婚相談登録者数においても、結婚支援センターのコーディネーターとハピ婚サポーターの連携、市内企業への訪問による結婚促進の取組に対する理解を深め、町ぐるみで結婚を支援する機運の醸成により、登録者数が増加し目標値を達成した。</p> <p>ハッピー婚シェルジュなどの出会いの場事業においては、参加者への事前レクチャーを充実させることで、異性との付き合い方や結婚に対する意識の醸成を図っている。</p>	なし
2 出産・子育て環境の整備・充実		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)保育サービスや子育て環境の充実では、ファミリーサポートセンター登録数は増加し、年度末目標目安を達成した。目標値の達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>(2)主な関連事業に記載している事業のみでは合計特殊出生率は上げられないため、移住・定住の促進、結婚促進等の施策との総合的な事業展開が必要である。引き続き、若者の移住定住と結婚促進を進めるとともに、子ども医療費助成のほか、不妊治療費助成、妊産婦医療費助成、産後ケアによる妊産婦が安心して医療を受けられる体制づくりや各種健康診査事業の取組により妊娠、出産、子育てまでの切れ目のない支援体制の充実を図る。</p>	なし

3 仕事と家庭の両立の実現		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A	(1)積極的なハッピーパートナー企業登録の呼びかけや、周知により、新規登録企業数は倍増し、年度末目標目安を達成し、目標値に向けて着実に進んでいる。今後も引き続き、積極的な企業訪問を行い、登録企業の増加を図っていく。	なし

■基本目標Ⅲ：地域の魅力を更に磨き、選ばれるまちを目指す		
総合評価	推進会議総括	委員からの意見
B ⁺	<p>基本目標Ⅲ「地域の魅力を更に磨き、選ばれるまち」に関連する事業は、前年度より目標達成に至った項目が多い。但し以下のことが懸念される。</p> <p>1. 都市部からの移住促進では、若い世代の UIJ ターンが微減にある。移住者のライフスタイルの伝え方、ツアー内容、発信法などがターゲット層に対して有効であるか、検証する必要がある。</p> <p>2. 地域の魅力を活かした交流の促進にあっては、大地の芸術祭の開催年度にあたるためそれが有意に働いた。ここで培った交流を継続出来るかが次年度以降の成果に繋がるものであり、関連事業の精緻化が求められる。</p> <p>3. 郷土愛の育成・十日町ファンの拡大にあっては、昨年度と同様に KPI 指標の有意味性が問われるものの、高い数値が出たことは十日町の魅力を伝える事業の有効性が窺える。</p>	<p>・基本目標Ⅲについては、B、B、Bと内部評価していますが、昨年から勤務で十日町市に来て、この地域は、スポーツ、芸術、自然など、地域の魅力が他の地域にはないものがある。十日町市は素晴らしいところである。評価が控え目である。KPIの今年度目標をある程度達成しているところが多い。基本目標Ⅰ、Ⅱに比べても遜色ない達成度合いと思う。</p> <p>・内部評価は少し低いのではないかとと思う。新潟県内市町村の住みたいまちランキングでは10位。人口に関係するのかと思って人口を調べたら、人口順位は18位。決して人口が多いからではない。また、昨日大阪の友人が「十日町市が住みよいまちの何かで見たよ」と言われた。私もよそから来た者で、率直に十日町市は良いところだと思う。もっと評価してよいと思う。</p> <p>・基本目標ⅢについてはAでよいのではないかと評価している。成果指標の社会動態のところは厳しい状況となっている。人口が減っている中で転出が増えている。転入は減り気味。こういうところ分析していくと新しい施策が見えてくるのではないかと。</p>
1 都市部からの移住促進		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)若い世代の UIJ ターンの促進における移住者数は年度末目標目安に達していないが、関連事業を展開することで目標値の達成に向け概ね進んでいる。</p> <p>また、移住から定住への助成事業や移住相談者等への交通費・宿泊費等の助成による移住支援制度の充</p>	なし

	<p>実を図るなど、市の重点施策である移住・定住の促進に積極的に取り組んでおり、転出者の抑制に繋がっている。</p> <p>(2)地域おこし協力隊の定住率はH30目標値を下回った。しかしながら、退任後は地域の資源を活かすNPOの設立など、様々な分野での起業や就業により地域で活躍していることから、今後も積極的な任用を推進していく。</p>	
--	---	--

2 地域の魅力を活かした交流の促進

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)外国人宿泊数が大幅に増加し、年度末目標目安を達成した。第7回展の大地の芸術祭の開催年であったことやインバウンド誘客に向けた海外プロモーションの成果が着実に伸びている。</p> <p>(2)フレンドシップ誘客促進事業利用件数は、年度末目標目安を達成した。今後も利用件数の維持に向け、都市部との交流促進を図る。</p> <p>(3)越後田舎体験入込数は年度末目標目安を下回ったが、関連事業による広域観光の推進や友好都市との交流により十日町市の魅力を発信している。</p> <p>(4)オリンピック・パラリンピック関連等の合宿数及び全日本級の大会の誘致・開催数は目標達成に向け着実に進んでいる。スポーツ合宿参加人数は年度末目標目安を下回るが、増加傾向にあり、概ね進んでいると判断できる。今後、更なる十日町市のスポーツをアピールし、交流の促進を図る。</p> <p>(5)大地の芸術祭では、通年誘客に向けて積極的に取り組みや国内外への情報発信及び受け入れ体制の強化が図られ、第7回展の目標を達成した。</p>	なし

3 郷土愛の育成・十日町ファンの拡大

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)ふるさとを愛する地域教育の充実では、住む地域や十日町を好きと思う児童生徒数は年度末目標目安を下回るが、高い数値で推移して</p>	なし

	<p>おり、目標値の達成に向けて概ね進んでいる。今後も関連事業の推進により、郷土愛の育成を図る。</p> <p>(2)郷人会参加者数は目標値を下回ったが、当市を応援してくれる外部の力は大きく、引き続き連携が必要である。</p> <p>(3)大地の芸術祭の作品のリニューアルやリピーターの割合の増加などにより第7回展の目標値を上回った。また海外への情報発信やインバウンド事業により海外からの来訪者が増加し、十日町ファン獲得に寄与するなど、着実に進んでいる。</p>	
--	---	--

■基本目標Ⅳ：安心して暮らせる時代に合った地域をつくる		
総合評価	推進会議総括	委員からの意見
B	<p>基本目標Ⅳ「安心して暮らせる時代に合った地域づくり」に関連する事業においては、「住み続けたい」と思う人の割合が減少傾向にある。本目標は他事業の成果とも関連があり、部署間、組織間の情報共有、連携を図り、誇りや愛着の醸成、住み続けられる地域づくりの推進が求められる。</p> <p>(1)時代に合った地域づくりにあっては、SDGsのゴール7、11、13との関連が深く、「選ばれる地域」として重要な施策であり、外部の諸機関との連携も視野に入れて、より一層の推進を期待する。また、市全体でのエコへの取組に対する機運の醸成や市民への見えやすい目標の掲げ方、省エネにつながる手法の広報などにより、目標達成を期待する。</p> <p>エネルギー対策の推進にあっては、地域水源の活用等、様々な体制が準備されていることは評価できる。</p> <p>環境問題はどうしても特定の人だけが参加し続けることになりがちになるため、広報の在り方を考え、自分事になっていくような取り組みが求められる。</p> <p>安心して暮らせる地域づくりでは、小さな拠点の活用は評価に値する。柔軟な活用の在り方も視野に入れながら、小さなコミュニティーの意義</p>	なし

	や支援が得られるような取り組みに力を入れて推進する必要がある。	
--	---------------------------------	--

1 時代にあった地域づくり

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1) 再生可能エネルギーの創出量では、事業化に向けた検討等に時間を要したため H30 目標値を下回ったが、今後の事業展開により、R2 年度以降の再生可能エネルギー創出量の増加が期待できる。</p> <p>(2) 一般廃棄物（ゴミ）の排出量は減少傾向にあり、目標値を達成した。更なるゴミの減量化と再資源化を推進するための分別回収の徹底に取り組む。また、節電エコポイント事業を開始し、更なる環境にやさしいまちづくりを推進している。</p>	<p>・令和7年度に実現するためには道のりが遠いのかなと感じる。市全体でエコに取り組む機運が足りないと感じる。再生可能エネルギー創出量 30%は大事なことだが、そもそも電気を使わないようにしようということも対策としてはあると思う。この分野に関してはもう少し市民に見えやすい目標の掲げ方、空気の作り方があったほうがよいと感じる。30%を達成すると、他から見て、すごい取組だなと評価されるので、本腰を入れてほしい。</p> <p>・30%目標は絶対大事なところであるが、それに向けてどうやっていくと実現するのか、細かい目標が可視化されると皆が自分事になっていく。</p>

2 安心して暮らせる地域づくり

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1) 市民アンケートによる克雪対策に対する市民満足度は下方傾向であるが、流雪溝整備、消雪パイプ整備等のインフラが計画的に整備され、また集落への小型除雪機械の導入や要援護世帯の雪処理の援助、住宅屋根の克雪化に要する費用補助等、克雪対策の推進を図っている。今後も市民ニーズを的確に捉え課題改善に取り組んでいく。</p> <p>(2) 小さな拠点の数については、川西地域の仙田地区において、「道の駅瀬替えの郷せんだ」を小さな拠点として取り組む地域再生計画が認定されており、住民主体による買い物支援や見守り支援等の生活サービス、また地域農業の担い手確保と移住定住に向けた取り組みを展開しており、生活圏を維持するための地域コミュニティ形成における一つのモデルとなっている。</p>	なし

検証全般に係る委員意見

なし